

9. ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィにて興味ある所見を呈した悪性リンパ腫の一例

小野 恵 小原 東也 高橋 恒男
柳澤 融 (岩手医大・放)

症例は72歳の女性で、ワルダイエル輪原発 stage IIAにて頸部放射線治療ならびに化学療法 CHOP 4クール、3AP-BLM 2クール(合計 CPA 2,800 mg, ADM 300 mg, VDS 8 mg, MTX 50 mg, ACNU 100 mg, BLM 100 mg)を施行された。この症例に対し ^{123}I -MIBG 心筋シンチグラフィが施行されたが心領域に全く集積が見られなかった。冠動脈疾患の危険因子、DM、自律神経障害はなく、胸部 X-P, ECG, ^{201}Tl -SPECT, $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HSA-D 心プールシンチグラフィでは、心臓に関する異常は指摘されなかった。心交感神経末端での異常が示唆され、抗癌剤多剤併用による心毒性が考えられた。

10. 褐色細胞腫の診断における ^{123}I -MIBG シンチグラフィの有用性

鐘ヶ江香久子 伊藤 和夫 加藤千恵次
中駄 邦博 藤森 研司 古館 正從
(北大・核)

^{123}I -MIBG はノルアドレナリン誘導体でありクロム親和性組織に集積することから ^{131}I -MIBG 同様褐色細胞腫の診断に有効とされている。褐色細胞腫が疑われた5例に対し ^{123}I -MIBG シンチグラフィを施行し、4時間像および24時間像の撮像を行った。5例中3例に集積が認められた。正常副腎は4例で描出された。また血中ノルアドレナリンレベルと心筋描出には負の相関が認められた。 ^{123}I -MIBG シンチグラフィは ^{131}I -MIBG 同様褐色細胞腫に対し特異的に集積し、その画像は良好であった。

11. ^{131}I -アドステロール副腎皮質シンチグラフィによる副腎腫瘍性病変の検討

木原 好則 清野 泰之
(長岡赤十字病院・放)
高橋 直也 小田野行男 酒井 邦夫
(新潟大・放)

CT等で片側副腎に腫瘍を認めた27症例(原発性アル

ドステロン症9例, Cushing 症候群6例, 褐色細胞腫3例, 転移性腫瘍3例, 非機能性副腎癌1例, 非機能性皮質腺腫5例)に対し ^{131}I -アドステロール副腎皮質シンチグラフィを行い、腫瘍側への集積状態により高集積, 正常集積, 低集積・欠損の3群に分類し、良悪性の鑑別について検討した。腫瘍側高集積像を呈した17例は全例、良性腫瘍であり、副腎癌・転移性悪性腫瘍は、全例、腫瘍側低集積・欠損像を示した。褐色細胞腫は腫瘍径により、正常集積または腫瘍側低集積・欠損像を示した。副腎腫瘍に対して、副腎皮質シンチは、その良悪性の鑑別に、有効な検査であると考えられた。

12. ^{201}Tl シンチグラフィによる縦隔腫瘍の診断

中駄 邦博 加藤千恵次 鐘ヶ江香久子
伊藤 和夫 古館 正從 (北大・核)

縦隔腫瘍13症例に対して ^{201}Tl シンチグラフィを施行しその有用性について検討した。対象例中、悪性腫瘍の陽性率は100%(4/4)であったが、良性腫瘍も55.6%(5/9)が陽性となり、全体の accuracy は61.5%(8/13)であった。また、nodule/background ratio や retention index による評価でも良性腫瘍と悪性腫瘍との間に有意差は認めなかった。しかし、8症例で ^{67}Ga シンチグラフィと結果を比較したところ、 ^{67}Ga 陽性・ ^{201}Tl 陰性例は認めなかったが、 ^{67}Ga 陰性・ ^{201}Tl 陽性例は2例みられた。また、腫瘍への ^{201}Tl の集積とMRIのGd-DTPAによる造影効果や腫瘍組織中のPCNA陽性率との間には関連性がみられた。 ^{201}Tl シンチグラフィから縦隔腫瘍の良悪を鑑別することは困難と考えられたが、腫瘍の性状に関する有用な情報を得ることが可能と思われた。

13. 骨軟部組織 ^{201}Tl シンチグラフィの delayed image の意義について

安久津 徹 駒谷 昭夫 間中友季子
斉藤 聖宏 高橋 和栄 山口 昂一
(山形大・放)

第31回日本核医学会北日本地方会で骨軟部組織病変への ^{201}Tl の集積の程度と、良性悪性との関係を検討した。今回は、さらに3時間後に撮像した delayed image の診断的意義を21症例について考察した。